

素材や技法・プロセスを意識した制作

美術教育講座・原田義明

1. 授業の概要と目的

本授業は、学校教育実践コース（美術教育専修）及び造形芸術コースの3回生を主対象とした合同授業であり、後学期に開講されている。本年度の受講生は、11名（美術教育専修3回生2名、造形芸術コース3回生8名、4回生1名）である。

本授業では、様々な素材を使った作品制作を通して、素材の特性や性質をみきわめて、これを造形的に処理し、生活のための“ものづくり”について学習することを目的とする。

2. 授業の到達目標

（1）造形素材への直接的な働きかけ（素材体験）を通して、生活の中における工芸の意義について説明できる。

（2）与えられた課題内容を理解し、それを生活に関わるものとして作品制作に生かすことができる。

（3）造形素材の特性を各自の制作意図に的確に反映させ、作品を具現化させることができる。

3. 授業内容

この授業は、2つの課題と2つの異なる造形素材で構成されている。課題Ⅰでは、ポリエステル樹脂を主要素材とし、異素材との組み合わせで作品制作を行い、課題Ⅱでは、銅合金を主要素材として鑄金の技法により作品制作を行う。様々な素材に触れ、それを加工する様々な技法・プロセスを理解する。

4. 素材や技法・プロセス意識した制作

工芸が他の分野と違うところは、素材や技法・制作のプロセスにおいて、様々な制約や制限があるところである。しかし、このことにより、素材の特性や技法・プロセスからの導きが、発想や表現の深化に繋がっていくことが多くある。今年度は、課題Ⅱにおいて主要な原型素材として使っていた素焼原型との組み合わせにより、新たに蠟及び油粘土を原

型素材として取り入れた。これは、金属作品の基になる原型素材の選択肢を増やすことにより、学生が制約や制限の中で、素材や技法をより深く理解し、プロセスを意識した作品制作を具現化させることを意図している。

5. 授業改善のためのアンケート

今回もデュプロマ・ポリシー（以下DP）に関する項目を設定し、授業最終日にアンケート調査を行った。DPに関しては、4段階で評価を行い①向上していない②どちらかといえば向上していない③どちらかといえば向上した④向上したとした。

DP以外の質問に関しては、問14までは5段階評価で行い、①全くそう思わない（良くない）②あまりそう思わない（あまり良くない）③どちらとも言えない（普通）④ややそう思う（良い）⑤強くそう思う（非常に良い）とした。なお、問11の回答は、①はい②いいえで答えることとし、問15～17は記述式とした。回答者9名

6. アンケート結果

DP1～5まで調査を行ったが、この授業ではシラバスで重点項目をDP1に設定しているため、今回はDP1のみを抽出する。

DP1. 教科・教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門知識を修得している。

（知識・理解）

① 1名 ③ 2名 ④ 6名

【授業の内容に関する質問事項】

1. 授業のテーマ・目的は授業展開の中で明確でしたか。

③ 1名 ④ 1名 ⑤ 7名

2. この授業の内容・レベルはあなたにとって適切でしたか。

② 1名 ④ 2名 ⑤ 6名

3. この授業で、あなたのこの分野への興味・関心は向上しましたか。

④ 1名 ⑤ 8名

4. この授業により、自分の考え方が培われ

たり、得るところがありましたか。

④ 2名 ⑤ 7名

【授業方法に関する質問】

5. 担当教員の話し方や説明はわかりやすかったですか。

④ 1名 ⑤ 8名

6. 担当教員の熱意。工夫は感じられましたか。

⑤ 9名

7. 制作中のアドバイスの内容は適切でしたか。

④ 1名 ⑤ 8名

8. この授業では、教材や資料が工夫されていましたか。

④ 1名 ⑤ 8名

9. この授業の中で質問や意見発表の機会が与えられ、教員はそれに適切に対応していましたか。

④ 1名 ⑤ 8名

【受講生自身に関する質問】

10. あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

④ 3名 ⑤ 6名

11. この授業の受講に際し、シラバスを読みましたか。

① 3名 ⑤ 6名

【授業全体に関する質問】

12. この授業のテーマ・目的は達成されましたか。

④ 5名 ⑤ 4名

13. この授業の課題を通して、制作者としての「つくる視点」だけでなく、使用者としての「使う視点」を意識するようになりましたか。

④ 3名 ⑤ 6名

14. この授業は満足のものでしたか。

④ 2名 ⑤ 7名

※以下、問15～17の設問は、誤字・脱字等を除き、受講生の記述をそのまま転記する。

15. 工芸では、素材や技法・制作工程からの導きが、様々な発想や表現につながっていくことがあります。印象に残った素材特性や技法・制作工程について記述して下さい。

○樹脂の加工のしやすさ。ブロンズを流し込むところが印象深かった。

○銅の色合いなど、意図して制作していく中で偶然の産物が生まれるおもしろさがあるなと思いました。

○ブロンズが着色や仕上げの方法によって、様々な表現ができる点が印象に残り、素材に対する意識が高まった。

○ロウを使った工程は、様々な場面で活用できそうだったと思った。

○樹脂のイメージが大きく変わった。意外に固く割れやすい。

○ブロンズ、溶かして流すとかは個人ではできないので、素材の魅力を知る良い機会になった。

○各授業の工程の中で、離型剤を使った作業が地味ながら好きでした。素材や技法によって変わる離型剤がこっそり面白かったです。

(キレイに方が離せた際も快感でした)

○磨くとつるつるになる。

○偶然に表われたものなど素材の移り変わりや特性の変化。

16. この授業で良くなかった点、改善すべき点を記述して下さい。

○日によって暑いときと寒いときがある。

○特に無いです。

○特になし。

○質問したいのでもっと教室にいてほしい。

17. 実習室の状態や学生数など受講環境について意見があれば記述して下さい。

○ちょうどいい人数だったと思います。

○調度よいと思う。

○乾燥していた。

○新しい教室で1度でも受講してみたかったです。

○適切だった。

7. まとめ

工芸は不自由さの中に多くの可能性が含有されている分野と言える。今回の授業では、素材や技法・プロセスを意識した作品制作を目指し、一部課題内容を見直し、制作プロセスの中で、新たに蠟と油粘土を従来の原型素材(素焼き原型)に組み合わせる方法を試みた。結果、約半数の学生が素焼き原型と蠟、素焼き原型と油粘土を原型として用い、今までにない多様な発想の作品が多く見られた。アンケート結果からは、制作過程での素材や技法からの魅力や発見が述べられており、授業の目的は達成できたと考える。今後も授業方法や内容の改善に注力したい。